

地方創生とコミュニティビジネス

NPO 法人 MyStyle@こだいら 竹内千寿恵

組織概要

- ★設立 2006.11.7 (設立9年目)
- ★運営形態 民設民営のコミュニティビジネス中間支援組織
- ★目指すこと 「暮らすまちで、仕事をつくる」ことと、「住み続けたいまちづくり」を、コミュニティビジネスで実現すること
- ★事業内容 コミュニティビジネス (CB) 活性化につながる事業全般
 - CB 起業講座、CB 相談会、交流会、商店街サイトの立上げ・運営、小さな事業体のための発信力強化事業など
 - ・東京都 女性・若者・シニア創業サポート事業アドバイザー団体
 - ・中小企業庁 ふるさとプロデューサー育成支援事業研修団体
 - ・経営革新等支援機関 (認定支援機関)

Information

【代表者名】 竹内 千寿恵 (「NPO 法人 マイスタイル」代表理事)

【活動地域】 東京都小平市、多摩エリアなど

【連絡先】 〒187-0043 東京都小平市学園東町1丁目17-8 小平事務所・ハタラボ

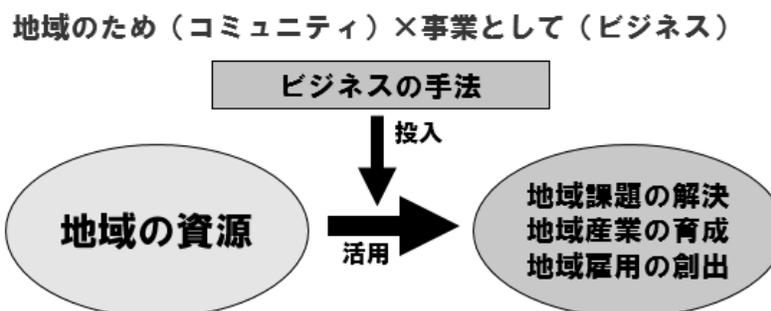
TEL : 042-312-1789 / FAX : 042-312-1759

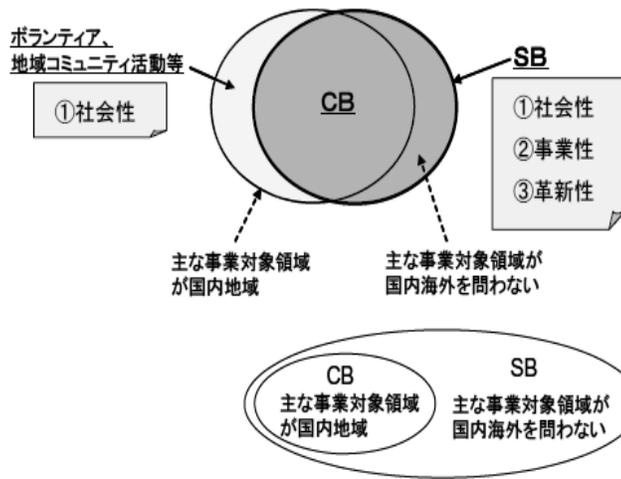
HP URL : <http://mystyle-kodaira.net/>

コミュニティビジネスとは

★コミュニティビジネスとは

市民が主体となり、地域の課題を事業の手法を用いて、継続的に解決しようとする事業の総称

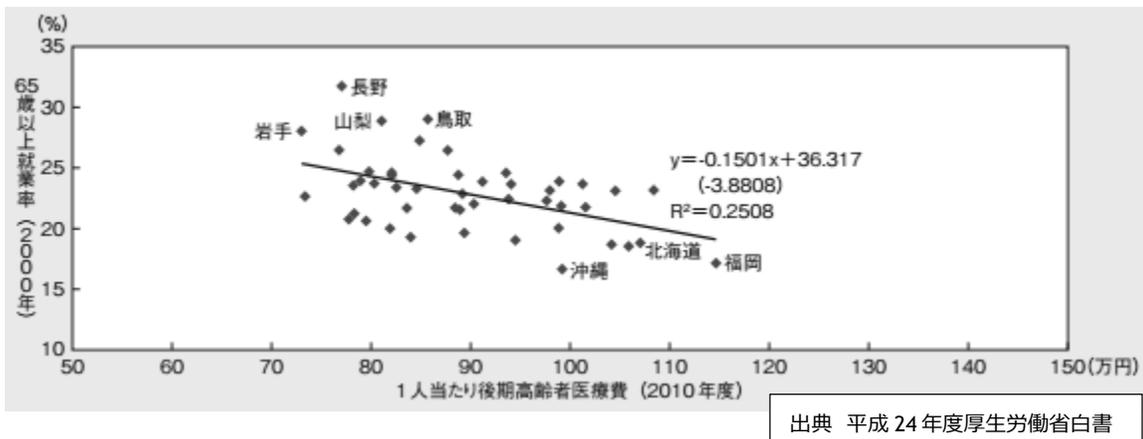




コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの位置づけ 出典 経済産業省平成20年「ソーシャルビジネス研究会報告書」

地方創生とコミュニティビジネスの可能性① 高齢者の起業・就労

★働く高齢者は健康



上記グラフより、高齢者の就業率と1人当たり後期高齢者医療費の相関をみると、負の相関、すなわち、就業率が高い都道府県は医療費が低くなる傾向がみられます。働く意欲と能力のある高齢者が働き続けられる環境を整備することにより、高齢者にも社会を支える側に回ってもらうことが、健康面、ひいては高齢期の生活にもプラスとなり、今後の社会保障の基盤がより確かなものになると考えられます。

暮らすまちで、まちを支える仕事＝コミュニティビジネスの担い手として、今後、高齢者の活躍への期待は大きく、今

後、超高齢社会を迎える社会にとって、取組む価値のある戦略と考えます。

“上勝町の高齢化率は徳島県1位。ところが1人当たりの老人医療費は約62万円で、徳島の市町村の中で最も少ない”

出典 明日なき老人村に、なぜ、ビジネス御殿が建ったのか | 企業 | 東洋経済オンライン |

地方創生とコミュニティビジネスの可能性② 女性の起業・就労

★働く女性の出産率は高い

日頃の CB 支援で出会う女性の傾向として、以下のような傾向が感じられます。

・コミュニティビジネスで起業している女性は、3人、4人、5人と、少子化の傾向に反して子供を多く出産している。

→仮説①) 一度キャリアを中断しても、起業によって働き続けられる環境を得ることで将来の展望が描けた結果、子育てに安心して取り組めるからではないか。

→仮説②) 域に互いを支えあうネットワークを構築しやすい CB に取り組むことで孤独な育児から解放され、まち全体で子育てをする環境を得られたからではないか。

→仮説③) 暮らすまちで働く仕事環境は、通勤の負担がなく、子どもとの距離感を密に保つことが可能になったからではないか。

実際に、マイスタイルでは、現役の恵まれたキャリアを持ちながら、退職し CB で起業を志す女性からの相談も担当しています。起業を決めた理由は、子育てとの両立と、まちぐるみで子育てする環境を CB で実現したいという理由でした。

都心への通勤、長時間労働、子育てとの両立で孤軍奮闘する女性の選択肢として、得られる収入と、暮らしの質が天秤にかけられた結果、暮らしを選ぶ潮流が始まっているようです。

